

よし
765-3936



緊急車両を除く



立会川
Tachigawa Rv.
17m. 496

根本建馬像
50m

沼川区東部地区
モテル地区
立会川地区

東大井二丁目27

涙橋

川
区

東大井
56

坂本 龍馬



涙橋

浜川橋

この橋が架けられたのは、徳川家康が江戸入府の際に、河口本陣を築かれた時、現在の橋は昭和九年（一九五〇）に架け替えられたのです。

源橋の由來

源橋四年（一六五七）、品川に徳川家康が幕府を築かれた時、幕府の御用として、此の地へ移住した人々は、鎌倉の産物や、江戸の産物、形物の運送に便した。この時、親類も此の地に足定りになり、この橋で舟を渡り、別れたと云ふことが、源橋の由來と云ふようになりました。

平成十一年三月五日
品川区教育委員会

品川区
モデ
北浜

品川

鈴ヶ森山陰

鈴ヶ森遺跡

二十五番 大経寺 東海道鈴

御田跡 鈴ヶ森遺跡

鈴ヶ森遺跡

都旧跡 鈴ヶ森遺跡

所在 品川区南大井二丁目五番六号 大経寺内
指定 昭和二十九年十一月三日

寛政十一年（一七九九）の大井村「村方明細書上」の写によると、慶安四年（一六五一）に開設された御仕置場で、東海道に面しており、規模は元禄八年（一六九五）に実施された検地では、間口四〇間（七四メートル）、奥行九間（一六・二メートル）であったという。

歌舞伎の舞台でおなじみのひげ題目を刻んだ石碑は、元禄六年（一六九三）池上本門寺日顛の記した題目供養碑で、処刑者の供養のために建てられたものである。大経寺境内には、火あぶりや、はりつけに使用したという岩石が残っている。

ここで処刑された者のうち、丸橋忠弥、天一坊、白井権八、八百屋お七、白木屋お駒などは演劇などによってよく知られている。

江戸刑制史上、小塚原とともに重要な遺跡である。

昭和四十四年十月一日 建設

東京都教育委員会

文化財を大切にしましょう

鈴ヶ森遺跡



首洗の井

火炙台

八百屋お七を初め火炙の
処刑者は皆この石上で
生きたまゝ焼き殺された
真中の穴に鉄柱を立て
足下に薪を積み縛りつけて
処刑されたのである

鈴ヶ森

史跡保存会

火炙台

磔台

丸橋忠弥初罪か
この台で死刑了た
真中丸橋忠弥首柱
幸いして上罪轉り
りし初罪かある
丸橋忠弥公

丸橋
忠弥
首柱
丸橋
忠弥
首柱

磔台

鯉塚

鯉塚



鈴木森

鈴木森刑場受刑者

鈴木森

区政40周年・区民憲章制定5周年記念

鈴木森遺跡

東京都史蹟 鈴ヶ森刑場遺跡
東京都史蹟 鈴ヶ森刑場遺跡

鈴ヶ森刑場遺跡



春

磐井神社

大田区文化財

磐井いゐの井戸いど

当社社名の由来となったこの井戸、「磐井」と呼ばれる古井で、東海道往来の旅人に利用され、霊水又は、薬水と称されて古来有名である。

この位置はもと神社の境内であったが、国道の拡幅により、境域がせばめられたため、社前歩道上に遺存されることになった。

土地の人々は、この井戸水を飲むと、心正しければ清水、心邪こころよこならば塩水、という伝説を昔から伝えている。

昭和四十九年二月二日指定

大田区教育委員会

磐井の井戸



磐井の井戸







避難場所⑤
多摩川河川敷A

六郷橋



六鄉橋



六郷橋



小杉
Kosai
↑
200m

横浜 横濱
Yokohama
Yokohama
↑
900m
浮島
Ukashima

六郷橋



六郷橋



六郷橋



六郷橋



ろくごうばし

六郷橋



明治天皇六郷渡御碑



明治天皇六郷渡御碑



明治天皇六郷渡御碑

明治天皇六郷渡御碑



川崎歴史ガイド 東海道と大橋

長十郎梨のふるさと

多摩川沿いにどこまでも続いていた梨畑。明治中頃、病害に強く甘い新種が大師河原村で生まれた。発見者当麻辰次郎の屋号をとり、「長十郎」と命名されたこの梨は川崎からやがて全国へ。



万年



六郷の渡しと旅籠街

家康が架けた六郷大橋は洪水で流され、以後、実に二百年の間、渡し舟の時代が続く。舟をおりて川崎宿に入ると、街道筋は賑かな旅籠街。幕末のはやり唄に「川崎宿で名高い家は、万年、新田屋、会津屋、藤屋、小土呂じや小宮……」。なかでも万年屋とその奈良茶飯は有名だった。

●川崎宿の家並

旅籠六二軒をはじめ、八百屋、下駄屋、駕籠屋、提灯屋、酒屋、畳屋、湯屋、鍛冶屋、髪結床、油屋、道具屋、鑄掛屋、米屋など合計三六八軒。

—文久三年の宿図から—
(八六三)



川崎宿

旧東海道

川崎宿

旧東海道

川崎宿

東海道川崎宿 田中本陣（下の本陣）と田中休愚

川崎宿に三つあったといわれる本陣の中で、最も古くからあった田中本陣は、寛永五年（一六二八）に設置されている。田中本陣はその場所が最も東、すなわち江戸に近い「下（しも）」の本陣ともいわれた。

本陣は大名や幕府の役人、勅使など武士階級専用の宿であった。その構造は、武士階級を宿泊させるために、当時一般の民家には許されなかつた門や玄関構え、上段のある書院など、書院造りを取り入れた空間と、本陣の主（宿場の中でも財力があり、信頼のおける名家などが幕府から選ばれていた）の一家の生活空間との二つを併せ持っていた。建物の改造や再建には幕府や諸藩から助成を受け、半官半民的な運営がなされた。



本陣は参勤交代の導入により、多くの大名が街道を旅するようになるとともに栄えたが、江戸後期には、大名家の財政難や参勤交代の緩和により、衰えも目立った。安政四年（一八五七）、アメリカ駐日総領事ハリスが、田中本陣の荒廃ぶりを見て、宿を万年屋に変えたことは有名である。明治元年（一八六八）、明治天皇の東幸の際、田中本陣で昼食をとり、休憩したとの記録がある。

明治三年（一八七〇）、新政府は天然痘に各地で種痘を行ったが、川崎では十一月から十二月にかけて六回、田中本陣で行う旨の布達が出されている。

宝永元年（一七〇四）、四十二歳で田中本陣の

営を継いだ田中休愚（兵庫）は、幕府に働きか

け六郷川（多摩川）の渡し船の運営を川崎

宿の請負とすることに成功し、渡船賃の

収益を宿の財政にあて、伝馬役で疲弊

していた宿場の経営を立て直した。さ

らに商品経済の発展にともなう物価の

上昇、流通機構の複雑化、代官の不正や

高年貢による農村の荒廃、幕府財政の逼迫

に対し、自己の宿役人としての経験や、するどい

観察眼によって幕府を論じた「民間省要」（みんか

んせいよう）を著した。これによって、享保の改革

を進める八代將軍吉宗にも認められ、幕府に登用さ

れてその一翼を担い、晩年には代官となったのであ

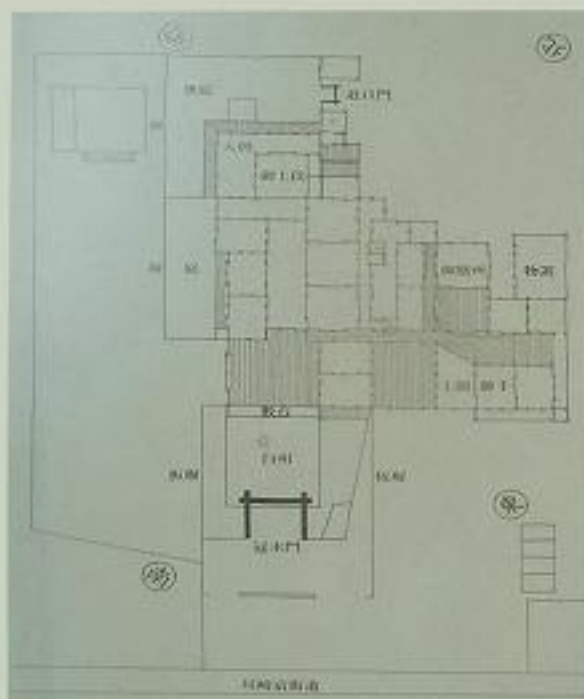
る。

川崎宿起立四百年（二〇二二）にむけて、その文化と歴史をまちづくり活かそう

東海道川崎宿二〇二二



田中本陣模型
川崎市市民ミュージアム



田中本陣図面
川崎市市民ミュージアム

所業行



田中休愚像
『玉川参登鯉伝』より

川崎歴史ガイド
旧東海



川崎歴史ガイド ● 東海道と大師道

田中本陣と休愚

きゆうぐ

田中（兵庫）本陣は、寛永五（一六二八）年に設けられた宿内最古の本陣である。ここ出身の休愚は宿の財政再建に尽力した人物で、当時の農政を論じた『民間省要』の著者としても知られる。

深瀬 泰旦

〒223-0296



史跡東海道川崎宿

宗三寺

中世前期、この付近は「川崎荘」と呼ばれる一つの地域単位を構成していたが、その時代荘内に勝福寺という寺院があり、弘長三年（一二六三）在地領主である佐々木泰綱が中心となり、五千人余りの浄財をあつめて梵鐘の鑄造が行われた。勝福寺はその後退転したようであるが、宗三寺はその後身とみられ、戦国時代、この地を知行した間宮氏が当寺を中興している。

『江戸名所図会』に本尊釈迦如来は、

「尺ばかりの唐仏なり」とあるように、本尊はひくい肉髯、玉状の耳朵、面長な顔、腹前に下着紬を結び、大きく掩腋衣をあらわす中国風の像である。今、墓地には大阪方の牢人で、元和元年（一六一五）川崎に土着した波多野伝右衛門一族の墓や、川崎宿貸座敷組合の建立した遊女の供養碑がある。

川崎市



宋三寺



歌川宏重 東海道五拾三次之内 神奈川 台之景 (神奈川県神奈川区)

川崎宿起立400年(2023年)にむけてその文化と歴史をまちづくりに活かそう

東海道川崎宿2023

川崎宿

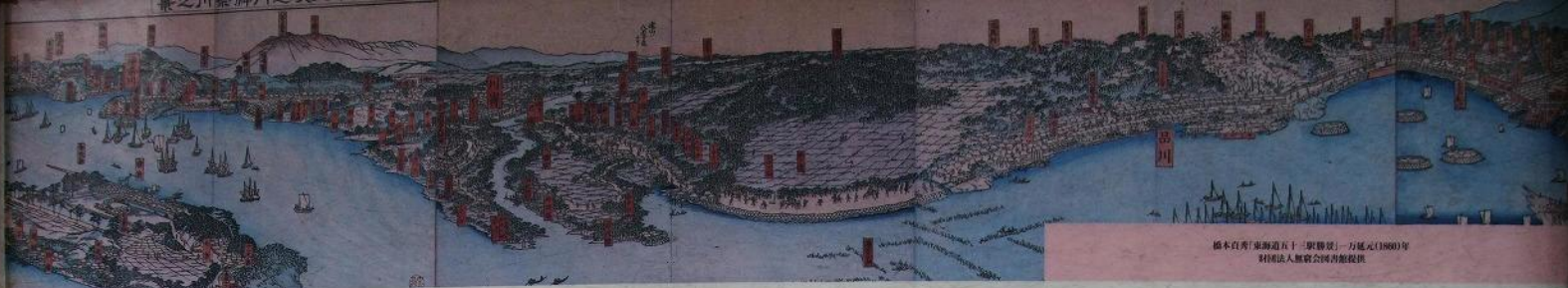
毎週水曜日 13
古 新聞 宮前
九時半迄 開演
閉演中止

砂子の里資料館

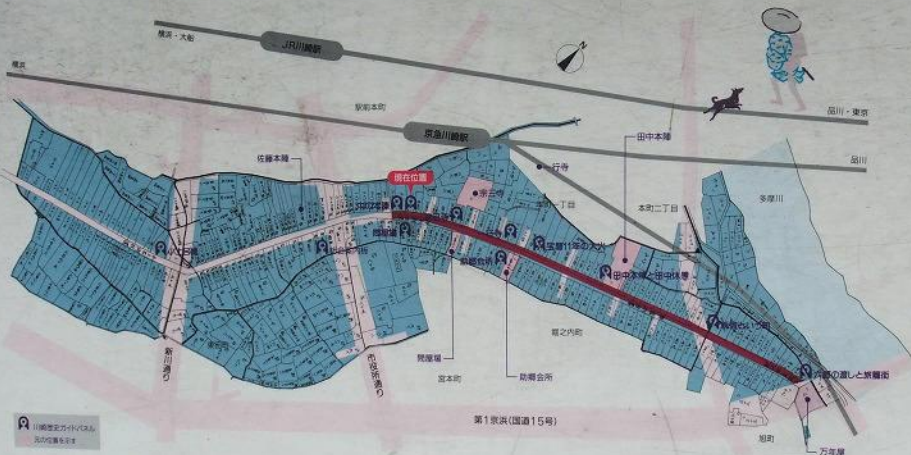


21世紀の
資料館
資料館
43
川崎宿

川崎宿



橋本白舟「東海道五十三駅群像」万延元(1860)年
 財団法人鎌倉文化財団提供



第1次図(国道1号)



鎌倉宿市「東海道五十三駅市川崎宿人御所見状」



昭和初期の市川崎宿(鎌倉市)の街並み(現在地)



連絡先 ● 財団法人川崎市文化財団 ● Tel. 044-222-8821

旧東海道川崎宿には大名や公家
 などが宿泊する本陣・前寄の業務を
 司る問屋場、近村より徴発した大馬
 が集まる助郷会所、高札場や火之番所
 などの公的施設をはじめ、旅館や商
 家など三五軒程の建物が約一四〇
 〇メートルの長さにわたって軒を並べ
 賑わいを見せていた。
 古文書や絵図から宿の町並みを
 探してみると、旅館は約七〇軒を数
 え、油屋・煙草屋・小間物屋・酒屋
 などが店を広げる。一方大工・鍛冶
 屋・桶屋ほか多くの職人や農民も居
 住しており、活気にみちた都市的景観
 を認めることができる。
 もともと、川崎宿のあたりは砂浜の
 低地で、多摩川の氾濫時には冠水の
 被害に見舞われる地域であった。そ
 のため旧東海道は砂州の微高地上を
 通るよう配慮がなされ、川崎宿の
 の設置に当たっては、宿場に盛土が施
 されたという。
 現在でも砂子から小土呂あたりを
 歩いて見ると、旧街道筋が周囲よりも
 幾分高いことがよくわかる。
 川崎宿は、慶安・元禄年間の大地
 震や宝暦一(一七六二)年の大火な
 ど度重なる災害に見舞われ、町並
 新以降も関東大震災や空襲などで、
 往時の景観は全く失われてしまっ
 したが、大きな変貌を遂げた今
 日の町並みの中に、宿の成立にかか
 る地形や寺院の配置など、川崎宿お
 もかげを見ることができよう。

川崎宿



「東海道分間定絵図」川崎宿（一部）

東海道川崎宿

佐藤本陣（上の本陣）跡地

本陣は江戸時代、大名や幕府の役人、勅使などが街道を旅する際に宿泊するために、各宿場町に設置された公認の武士階級専用の宿舎である。

川崎宿が最も栄えた頃には、京都に近い方から、上（佐藤本陣）、中（惣兵衛本陣）、下（田中本陣）の三つの本陣があった。

佐藤本陣は、十四代將軍徳川家茂も京都に上がる旅中に宿泊したと言われている。

本陣は、宿場町の中でも財力があり、信頼のおける名家が幕府に選ばれて、その主人が運営に当たった。

本陣には、当時武士階級の建築様式であった門や玄関構え、上段のある書院が設置され、主人にはしばしば苗字帯刀が許された。

川崎宿創立四百年（二〇二三年）にむけて、その文化と歴史をまっすぐに活かそう

東海道川崎宿二〇二三



「歌川広重 東海道五拾三次之内 関本陣半段」
（又重東京山本）本陣と半段に登場する大名の一行を描いている。

門を入ると、鞍台と玄関からなる「玄関構え」があり、そこから本陣の主と来客の武士とが正式に挨拶を交わした。
門の外にはその日宿泊する大名の紋所の入った提灯が下げられ、大名の權威を象徴する関札が宿入口と本陣前に掲げられた。

川崎宿



佐藤惣之助生誕の地



佐藤惣之助
昭和十一年
七月二十一日
没す

佐藤惣之助（1897-1941）は、大分県佐伯市に生れた。幼少から東京で過ごし、早稲田大学文学部卒業。戦前、文壇で活躍し、戦後、民主主義の推進に尽力した。代表作に『小説のそと』、『小説のなか』などがある。没後、佐藤惣之助文学賞が創設された。

詩人：佐藤惣之助生誕の地



川崎宿

史跡東海道川崎宿

川崎宿京入口

宿場の入口には切石を積んだ土居があり、これを出ると謂ゆる八丁畷の一本道、土居内は八三三間、このなかに小土呂、砂子、新宿、久根崎の宿を構成する四つの町があった。江戸時代後期における人口は七七〇戸、三、二〇〇人余りであり、伝馬役を負担する農民のほか、旅籠、大工、傘職、仏師、左官桶職、経師、指物師などさまざまの商人や職人が住んでいた。文久二年（一八六二）外国人遊歩区域となつた当宿には、この土居付近に外人警護のため第一関門が設けられ、以下保土ヶ谷宿まで一九ヶ所に設けられた関門番所には、宿役人二名、道案内三名などが詰めて警戒にあたり、非常の際は半鐘を鳴らし、隣りの番所と連絡をとつたのである。

川崎市



耐震開業
1周年

耐震開業
1周年

市場村一里塚

横浜市消防局
防火水槽
容量 40 m³

市場村一里塚(江戸より五里)

生麦事件発生現場

文久二年八月二十一日辛未晴天



早川松山 殺殺之麦生 画

島津三郎様御上り異人
四人内女衾人横浜与来
り本宮町勘左衛門前ニ
而行逢下馬不致候哉異
人被切付直ニ跡へ逃去
候処追被欠衾人松原ニ
而即死外三人ハ神奈川
へ疵之儘逃去候ニ付御
役人様方桐屋へ御出当
村役人一同桐屋へ詰ル
右異人死骸ハ外異人大
勢来り引取申候

生麦事件発生現場(現:民家)

生麦村名主

関口日記ヨリ

平成十一年一月

生麦事件参考館設置

生麦事件之跡



平戸の歴史
1862年
'NAMAMU
INCIDENT'
Among the
Incidents
of the To
day, the
one which
has had the
most res
tless con
sequences
was the 'Nam
amu Incident'
which took
place on
August 1862
between the
British and
the Japanese.
The British
were the
first to
attack and
the result
was the
opening of
Japan to
foreign trade.
The history of
the incident
is recorded
in the
British
Consular
Reports
of 1862
and 1863.
The
British
Consular
Reports
of 1862
and 1863
are
available
at the
British
Library
in London.
The
British
Consular
Reports
of 1862
and 1863
are
available
at the
British
Library
in London.

清見市教育委員会



生麦事件の碑

横浜市地域史跡
なまむぎ じん
生麦事件の碑

昭和六十二年十一月一日登録

朝廷は幕府に攘夷断行を求め、江戸に赴く大原勅使の護衛として薩摩の島津久光が同行し、その帰途、文久二年八月二十一日（西暦一八六二年九月十四日）午後二時、行列を横切ろうとしたイギリス人一行を生麦で殺傷しました。この事件を土地に因んで生麦事件といい、薩英戦争の契機となりました。

明治十六年、鶴見の人、黒川莊三が中村敬字の撰文を得てイギリス商人リチャードソン落命の地に、遭難の碑を私費で建立したものです。

（碑文） 文久二年壬戌八月二十一日英国人力査通 頼命干此處乃鶴見人黒川莊三所有之土地

莊三乞余誌其事因爲之歌也 日

蹟 君流血此海濱我新刃進亦益其強其弱
王室振耳目新号鳴民權樹々生死此劫開
國有史君名傳我今作歌勸直標君其金多
九原

明治十六年十二月 敬字中村正成 撰

（基）彫刻師 波島善六

'NAMAMUGI' INCIDENT

Among the incidents which saw foreigners being slain in the late days of the Tokugawa Shogunate (the last half of the 19th century), one which resulted in a tense international controversy was the so-called "Namamugi" Incident. In August 1862 when Samurai of the Shimazu Clan murdered an Englishman named Richardson in Namamugi Village. On the spot where the Englishman was attacked and killed, Shoza Iwano-hawa of Tsurumi, Yokohama to day, erected a monument, entrusting the inscription to Keiu Nakamura. By this means, the historical site this day.

平成三年三月

横浜市教育委員会

文久二年生麦事件参考館案内図

